

【説明資料】 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的、利用方法、作品自体やその製作過程で工夫したことを、文章、写真、図などで説明。この用紙1枚に記入後、PDF ファイルを作成。

学校名	熊本大学	個人・グループ名	内山 彩	作品名	対人関係対処法ソフト
-----	------	----------	------	-----	------------

厚生労働省の平成16年国民生活基礎調査によれば、12～14歳の子どものうち3割から4割が「悩みや不安がある」としている。その内容は「学業・受験・進学」、「家族以外との人間関係」、「家族との人間関係」が上位を占め、人間関係すなわち対人関係・コミュニケーションの悩みが多いことがわかる。これに対して、教員の資質向上を目的として、教員養成・教員採用・教員研修などの方策が行われている。また、学童期における学校での心の健康に関する指導等を行うなどの健康教育の充実を図るとともに、平成16年度から学校と地域保健の連携を図り、子どもの心身の健康相談活動の充実に資する「学校・地域保健連携推進事業」が行われている。さらに、平成7年度からはスクールカウンセラーが配置され、平成16年現在では全国の中学校数11,102校の76.7%までに拡充されている。一方、中学校学習指導要領では、「…教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに生徒理解を深め、生徒が自主的に判断、行動し積極的に自己を生かしていくことができるよう、生徒指導の充実を図ること。…」とあり、指導上も対応が行われている。しかしながら、このような取り組みに反して最近の報道では、児童生徒にまつわる痛ましい事件が後を絶たない。

子どもの心の問題に対応するためには、子どもの表情、身振り、言動などの小さな変化に気付き、初期段階で対応することが必要である。このような子どもへの理解力・指導力などの「教師力」の育成・向上には、教員全員が問題に対し専門的な知識に基づいて共通理解を深める方法が一定の効果をあげていると報告されている。この方法には、スクールカウンセラーによる校内研修などがあるが、高等教育の教員養成段階において心の健康教育に関する専門的知識や実践的対応等を修得することも一つの方法である。

そこで本ソフトは、教員養成段階において子どもの心の健康教育に関する知識を獲得することを目的として、授業でも利用でき、自主学習を行うこともできる対人関係対処法ソフトである。

Flash Player と Web ブラウザがあるパソコンから利用することができるため、使用するパソコンには有償のソフトは導入する必要はない。

このソフトは、場面設定の内容について、熊本大学教育学部養護教諭養成課程の教員及び学生と詳細に打ち合わせを行い、コンテンツ内容の制作の基盤とした。また、設問や登場人物のセリフなどを、外部のテキストファイルから読み込めるようになっており、ニーズに合わせて、容易に内容を変更することができるようにした。

